



川口遺跡

神秘的な佇まいを見せる
オホーツク文化期の遺産

天塩市街地より北西に1.5kmの天塩川沿いの川口遺跡風景林内にあり、竪穴遺跡群が、天塩町字川口基線1～3号あたりまで広がっており、幅200m、長さ1.5kmにわたり230基分布しています。これらは、続縄文記、擦文文化期、オホーツク文化期の暮らしを知る上で、貴重な文化遺産となっています。

林の中には、観察しやすいように遊歩道を設け、竪穴住居を復元したものを2基配置しています。楕円形や長方形をしたものもありますが、方形式(正方形、台形、五角形等)のものがもっとも多く、最大のもので11m×9m、最小のもので0.7m×0.7m。一辺が5～6mのものが比較的多数を占めています。

天塩町史によると、続縄文時代に集落の形成が始まり、擦文文化になると竪穴式住居の数が急増したといえます。このような形をとる遺跡は、道内の各地の河川の下流域から川口周辺に見られます。特に、道北から道東の沿岸には数100から1000以上の竪穴群の遺跡が遺されています。川口遺跡には、擦文時代(8世紀後半～中世)を中心とする竪穴群が遺されていますが、その特色は他の地域の竪穴群と共通した点が多いこと。こうした場所に住居跡があることで、川をさかのぼるサケ類の漁をしたり、背後の森林でのエゾシカやウサギなどの狩猟、山菜類の採集を基本とする暮らしぶりが想像できるといいます。共通点が多いことで、集落生活を営むそれぞれの集団のお互いの連絡、交渉が緊密であったこともうかがえるそうです。

見どころ

道道天塩線沿いにトイレを備えた駐車場があり、遊歩道は樹木に覆われたトンネルのようになっています。2ヵ所で竪穴式住居が1基ずつ復元されています。遺跡から発掘された土器や石器は、一部が復元され、「天塩町郷土資料館」に保管されています。

ポイント

遺跡は、続縄文期、擦文文化期、オホーツク文化期の暮らしを知る貴重な文化遺産となっています。竪穴住居跡は最大のもので11m×9m、最小のもので0.7m×0.7m。一辺が5～6mのものが比較的多数を占めています。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



川口遺跡の周辺に広がる川口遺跡風景林は、整備された遊歩道が天塩川左岸の国有林内を貫いていて、樹木に覆われトンネルのようになっています。遊歩道沿いにベンチが備えられていて、自然の中でリラックスすることができます。



川口遺跡に隣接した巖島神社は、海や川で働く人々の守護神として祀られ、周囲には彫刻の森、開基100年記念碑、多目的広場等が整備され、道行く人々の憩いの場となっています。

■ 基本情報 (R1.5)

住 所：天塩郡天塩町字川口基線
T E L：01632-2-1001(天塩町商工観光課)
利用期間：5月1日～10月31日
利用時間：早朝より日没まで
休 館 日：無休
利 用 料：無料